

2023年3月15日

図書館便り・お知らせ 第15号



— 図書館 来てね！ —



「図書館来てくれて、ありがとう」

本はことばです。ことばは、音がまずありきです

静かに読むだけでなく、声に出して読んでください

「声にだすことばえほん」と「乙女の本棚」シリーズです



*「春はあけぼの。やうやうしろくなり行く、山ぎはすこしあかりて、むらさきだちたる雲のほそくたなびきたる。」清少納言『枕草子』(冒頭) ⇒ 日本語の美しさは、五七調にあると言われますね！

*「蠅を叩きつぶしたところで、蠅の「物そのもの」は、死にはしない。単に蠅の現象をつぶしたばかりだ。(ショウペンハウエル)」「旅への誘いが、次第に私の空想から消えていった。昔はただその表象、汽車や、汽船や、見知らぬ他国の町々やを、イメージするだけでも心が躍った。しかるに過去の経験は、旅が単なる「同一空間における同一事物の移動」に過ぎないことを教えてくれた。」萩原朔太郎『猫町』(冒頭) ⇒ 何で、ショウペンハウエルの引用から始まるのか？ 幻想は哲学的かな？



*「白梅やニョキリ紅梅咲きにけりおもしろいねでよろしかろうか」(3月9日10:41) * 花壇の入替作業中。ヨーロッパではクロッカスは、春の訪れを知らせてくれる花の一つです。花言葉は、「青春の喜び」。黄色は、「私を信じて」です(9日10:52) *「辛子菜や雉と思えば鳥かな」(9日11:07)(司書)

2022年「図書館来てね！」一覧(イベント・お知らせなど紹介)



* 私ごとですが、3月末日で退職します。お世話になりました。朗読他、声の聞こえる図書館にしまい、お騒がせしました。☆それぞれの個性をいつまでも大切に、夢を忘れないでくださいね！(司書 白井大治)